



光る知性 豊かな心 強い意志

南中生

長井市立長井南中学校

令和 4 年 5 月 19 日

校長 赤間 幸生

令和 4 年度 西置賜地区中体連 重点目標

感謝の心を自分たちの行動で表そう

～コロナ禍においても大会ができる喜びを、支えてくださる様々な方へ自分たちの行動で示していこう～



昨年度の春の選抜高校野球選手権大会で、福島県出身で仙台育英高校の、島貫丞（じょう）主将は、「新型コロナウイルスの状況」と「東日本大震災から10年」を織り交ぜながら、こんな選手宣誓をしました。

宣誓！ 今日ここに、高校球児の憧れの舞台である甲子園が戻ってきました。この1年、日本や世界中に多くの困難があり、それぞれが大切な多くのものを失いました。

答えのない悲しみを受け入れることは、苦しくてつらいことでした。

しかし、同時に多くのことを学びました。

当たり前だと思う日常は、誰かの努力や協力で成り立っているということです。

「感謝」

ありがとうございます。これは出場校全ての選手、全国の高校球児の思いです。

「感動」

喜びを分かち合える仲間と共に、甲子園で野球ができることに感動しています。

「希望」

失った過去を未来に求めて、希望を語り、実現する世の中に。

そして、この3月で東日本大震災から10年となりました。

日本、世界中に多くの協力や支援をいただき、仲間に支えられながら困難を乗り越え、10年前、あの日見た光景から想像できないほどの希望の未来に復興が進んでいます。

これからの10年、私たちが新しい日本の力になれるように歩み続けます。

春は選抜から、穏やかで鮮やかな春、そして1年となりますように。

2年分の甲子園、一投一打に多くの思いを込めてプレーすることを誓います。

福島県出身だからこそ強く思う島貫主将ならではの言葉を織り交ぜた宣誓。失ったからこそ見えてきたものを大切にするとところに新たな未来を開くカギがあるから、生き生きと進みたいという思いに胸が熱くなったことが忘れられません。

西置賜地区中体連の今年度の目標は島貫主将と同じ「感謝の心」です。中学校も高校もどこの地域でも、大会が開催できることに感謝、参加できることに感謝、部活動ができることに感謝なのです。その最初の中体連の大会「**西置賜地区中学校駅伝競走大会**」が5月14日（土）に開催されました。



総勢17人は、自分の所属する部活動の練習にプラスして練習を重ねてきました。特に、3年生は、修学旅行を大成功に収めて帰ってきたばかり。羽黒山の2449段の石段を踏破し、足腰は悲鳴をあげている状態。ガクガク・プルプルな状況だったにもかかわらず、見事な力走を見せ、努力と根性の姿を見せつけました。素晴らしい選手団でした。長井北



中学校コース周辺は、田植えの最盛期。さらに、区画整備工事の真ただ中。農家の皆様や工事関係者の皆様の全面的なご協力の下、思いっきり練習の成果を発揮することができました。



無観客で声援無しという静寂の中、号砲が鳴り、熱い戦いが繰り広げられました。応援が孤独な自分との戦いを鼓舞してくれるはずなのに、どこを走っても、いつになっても静かなまま。まさに他校選手の足音と、自分自身との戦いでした。結果は、選手の粘り強さとフォロワーの安心なサポート体制、そして男女の総合力により、女子が第2位。県大会出場。創立41周年のスタートに輝かしい華を添え、勢いを加速しました。

西置賜地区中体連の目標を胸に刻みながら練習に取り組み、本番に臨む姿勢を駅伝選手団は見せてくれました。



栄光の記録

◇ 西置賜地区中学校駅伝競走大会

5月14日（土）

第2位 女子チーム * 県大会出場

< 志釜蘭星（区間賞） 内谷凜音 田中友望 大塚藍音 新野遥菜 >

女子最優秀選手賞 志釜蘭星（3年生）

